

令和4年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立今福小学校
校長 牛尾 慶一郎

令和5年3月

大阪市立今福小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 令和 3 年度「全国学力・学習状況調査」結果によると、本校では、国語・算数とも平均正答率が大阪市・全国と比べて下回り、無解答率は大阪市・全国に比べて高い。
- 国語については、漢字の定着が不十分である児童がみられ、繰り返し練習するだけでなく、他の教科の学習でも適切に使ったり、自分が書いた文章を読み返したりする中で正しい使い方を習得できるようにしていくことが大切である。また、「話すこと・聞くこと」にも課題がみられた。自分の考えや伝えたい内容を相手にわかりやすく伝えるため、事実や感想、意見を区別して話の構成を考えることが大切で、国語だけに限らず、全教科領域で展開していくことが重要である。
- 算数については、三角形や平行四辺形などの図形を構成する要素の理解に課題がみられた。公式を用いて面積を求めるだけでなく、実際に図形を分割したり、変形したりして筋道を立てて説明できるようにすることが必要である。また、グラフからデータの特徴や傾向を読み取ることや二つの観点からデータを分類整理し表に表すことに課題がみられ、設定した問題に対してどのようなデータを集めるべきかなど児童に考えさせる活動などを取り入れていくことが重要である。
- 規範意識や思いやり、情操面を問う本校児童アンケートでは、高学年ほど「きまりを守る」に対する肯定的な回答が低下する傾向があることから、今後も集団登校や縦割り班、異学年での活動等を多く取り入れることで、児童同士で規律を高めあえるようにする。
- いじめについては、年 3 回の児童アンケート調査や日常の児童観察、毎月の校内委員会での情報共有を通して、早期発見・早期解決につながる体制が構築されているが、引き続き、人権を尊重する教育を進め、安全・安心な教育環境の実現をめざす。
- 本校には支援を要する児童が多く在籍していることから、引き続き、インクルーシブ教育の充実と推進に向け、合理的配慮に基づく学習環境の整備を進める。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和 7 年度の全国の学力学習状況調査における「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を令和 3 年度より 5 ポイント向上させる。
- 令和 4 年度～7 年度の年度末いじめアンケートにおいて、学校で認知しているいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年 100% にする。
- 令和 7 年度の校内児童アンケートにおける「学校や家庭、地域などで地震や火災、事件などが起った時、どのように行動したらよいかしっていますか」の項目の肯定的回答の割合を 95% 以上にする。
- 令和 7 年度の保護者アンケートで「子どもは楽しく学校に通っている」の項目の肯定的回答の割合を 90% 以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「学級との友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的回答をする児童の割合を 75%以上にする。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的回答をする児童の割合を 80%以上にする。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査の「国語」「算数」において、すべての問題に対する未回答の割合を 6 %以下にする。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査の「運動（体を動かす遊び）やスポーツをすることは好きですか」において、肯定的回答をする児童の割合を 80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度末の校内調査の「ほぼ毎日、学校活動の中で学習者用端末を使っていますか」の項目について肯定的に答える児童の割合を 100%にする。
- ゆとりの日の設定を週 1 回以上設定する。学校閉序日については、夏季休業期間中は 3 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 1 日以上設定する。
- 令和 7 年度の校内調査の「すんで、本を読んでいますか。」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 80%以上にする。
- 令和 4 年度～令和 7 年度末の研修後のアンケートにおける「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教員の割合を毎年 80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- 1 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 100%以上にする。
- 2 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 3 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 1 年度末のいじめアンケートにおいて、学校で認知しているいじめについて解消した割合を毎年 100%にする。
- 2 年度末の校内調査において、不登校になる児童数を前年度と同様に、0 人とする。
- 3 年度末の保護者アンケートで、「子どもは楽しく学校に通っている」の項目について肯定的な回答の割合を 90%以上にする。
- 4 校内児童アンケートにおける「学校や・家庭、地域などで地震や火災事件などが起こった時、どのように行動したらよいか知っていますか」の「知っている」とする肯定的な回答の割合を 95%以上にする。
- 5 小学校学力経年調査における児童質問紙において「自分にはよいところがある」といった項目の肯定的な回答を 80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 1 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。
- 2 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。
- 3 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 4 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。

学校園の年度目標

- 1 令和4年度の小学校学力経年調査における「学級との友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的回答をする児童の割合を73%以上にする。
- 2 令和4年度の小学校学力経年調査の「国語」「算数」において、すべての問題に対する未回答の割合を7%以下にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- 1 令和4年度末の校内調査の「ほぼ毎日、学校活動の中で学習者用端末を使っていますか」の項目について肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。
- 2 ゆとりの日の設定を月2回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。

学校園の年度目標

- 1 令和4年度の校内調査の「すすんで、本を読んでいますか。」の項目について、肯定的に答える児童の割合を78%以上にする。
- 2 研修後のアンケートにおける「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教員の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は85.0%で目標を下回った。なお、学校で認知したいじめについては、早期に対応することにより、全て解決に至っている。
- ・不登校については、その傾向にある児童1名がいたが、現在は登校できている。校内委員会で共通理解をはかることにより、全教職員が意識して対象児童を見守ることができた。

- ・年度末の保護者アンケートで、「子どもは楽しく学校に通っている」の項目について肯定的な回答の割合を 99.1% で目標を達成した。
- ・生活目標を毎週設定し指導することにより、きまりを守れる子どもは増えてきた。
- ・校内児童アンケートにおける「学校や・家庭、地域などで地震や火災事件などが起こった時、どのように行動したらよいか知っていますか」の「知っている」とする肯定的な回答の割合は 95.2% 以上で目標を達成した。
- ・小学校学力経年調査における児童質問紙において「自分にはよいところがある」といった項目の肯定的な回答は 76.7% で目標にわずかに満たなかった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級との友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的回答をする児童の割合は 80.0% で目標を達成した。授業の中で、ペア学習やグループ学習など、話し合いの時間を確保するよう努めてきた成果が表れた。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率は国語が 62.0%、算数が 59.6% であり、前年度より、国語が 7.5 ポイント、算数が 2.0 ポイント向上している。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、朝学習などで、基礎基本の学習を繰り返し学習し、定着が図られてきた。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 82.8% で目標を達成した。朝のモジュール学習や、外国語の授業において、児童が親しめるように工夫し、充実させてきた成果が表れた。
- ・令和 4 年度の小学校学力経年調査の「運動（体を動かす遊び）やスポーツをすることは好きですか」において、肯定的回答をする児童の割合を 75.5% で目標を下回る結果となった。体育の授業や、外遊びを通して、児童に体を動かすことの楽しさを伝え、学級のボールも増やし、体育的な用具の充実も図ってきたが、引き続き、工夫していく必要がある。
- ・令和 4 年度の小学校学力経年調査の「国語」「算数」において、すべての問題に対する未回答の割合は国語が 6.5%、算数が 5.2% で目標を達成した。職員間で協力して、アプローチの仕方を工夫しながら、あきらめない心を育てるように取り組み、課題をやらせきる取り組みが結果に表れた。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和 4 年度末の校内調査の「ほぼ毎日、学校活動の中で学習者用端末を使っていますか」の項目について肯定的に答える児童の割合を 85% 以上にする。
- ・ゆとりの日は月 2 回、学校閉庁日については、夏季休業期間中は 4 日、冬季休業期間は 2 日設定することができ、目標を達成した。
- ・令和 4 年度の校内調査の「すすんで、本を読んでいますか。」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 76.2% で目標を下回る結果となった。
- ・校内研修を年間を通じて 3 回実施し、目標を達成した。研修後のアンケートにおける「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教員の割合は 100% であった。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>1 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を100%以上にする。</p> <p>2 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>3 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>1 年度末のいじめアンケートにおいて、学校で認知しているいじめについて解消した割合を毎年100%にする。</p> <p>2 年度末の校内調査において、不登校になる児童数を前年度と同様に、0とする。</p> <p>3 年度末の保護者アンケートで、「子どもは楽しく学校に通っている」の項目について肯定的な回答の割合を90%以上にする。</p> <p>4 校内児童アンケートにおける「学校や・家庭、地域などで地震や火災事件などが起った時、どのように行動したらよいか知っていますか」の「知っている」とする肯定的な回答の割合を95%以上にする。</p> <p>5 小学校学力経年調査における児童質問紙において「自分にはよいところがある」といった項目の肯定的な回答を80%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【2 豊かな心の育成】 進んで元気にあいさつできるようにする。	B
指標 「あいさつ週間」を毎月実施する。	
取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】 学校のきまりを守ることについて、生活目標を毎週設定する。	B
指標 生活目標を毎週設定し、週始めに指導する。	
取組内容③【2 豊かな心の育成】 縦割り班編成により、活動の活性化を図り、異学年交流を深める。	B
指標 計画的に、縦割り班活動に取り組む。	

<p>取組内容④【1 安全・安心な教育環境の実現】 年間指導計画に沿って防災・防犯に関する授業を実施する。「警備及び防災・防犯の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。</p>	A
<p>指標 各学年、学期に1時間の防災・防犯教育の授業を実施し、通常の避難訓練を年3回実施する。</p>	
<p>取組内容⑤【2 豊かな心の育成】 ゲストティーチャーを招いたり、校外の施設を見学したりするなど体験活動を充実させる。</p>	A
<p>指標 ゲストティーチャーの招聘や地域の力を活用し、校内体験学習を実施する。また、校外の施設等を見学し、文化・芸術に関する体験活動を全学年で1回以上実施する。</p>	
<p>取組内容⑥【2 豊かな心の育成】 学校生活の中で、児童が「自分のことを大切に思うことができる」という気持ちを育めるように職員間での連携を積極的に行う。</p>	B
<p>指標 月1回の校内委員会を実施し、共通理解を図り対策を打ち出す。</p>	
<p>取組内容⑦【2 豊かな心の育成】 人権教育・道徳教育の年間指導計画を作成し、児童理解に努め、人権教育研修を年1回行う。</p>	B
<p>指標 月1回の校内委員会において児童理解に努め、対策を講じる。また、人権教育研修を実施する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① あいさつ週間は毎月実施し、あいさつができる児童は増えた。まだ一部できていない子どもがあるので継続して指導が必要である。</p>	
<p>② 年度末の保護者アンケートで、「子どもは楽しく学校に通っている」の項目について肯定的な回答の割合を99.1%で目標を達成した。生活目標を毎週設定し指導することにより、きまりを守れる子どもは増えてきた。</p>	
<p>③ 縦割り班活動で異学年交流を深めることができた。コロナ前の状態に少しずつ戻りつつある。</p>	
<p>④ 防災・防犯教育の授業を実施するとともに、次の通り避難訓練を年3回実施できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年6月13日（火）火災 ・令和4年11月28日（月）地震・津波 ・令和5年2月21日（火）不審者対応 	
<p>校内児童アンケートにおける「学校や・家庭、地域などで地震や火災事件などが起こった時、どのように行動したらよいか知っていますか」の「知っている」とする肯定的な回答の割合は95.2%以上で目標を達成した。</p>	

⑤ 計画通りに体験活動を実施し、目標を達成した。

- ・令和4年6月10日（金）田植え体験
- ・令和4年10月18日（火）外国語活動
- ・令和4年10月19日（水）稲刈り体験
- ・令和4年10月31日（月）芸術鑑賞（校内）
- ・令和4年11月9日（火）脱穀体験
- ・令和4年11月22日（火）盲導大学習
- ・令和4年11月29日（火）音楽鑑賞会（いずみホール）
- ・令和4年12月8日（木）外国語活動
- ・令和4年12月14日（火）しめ縄作り体験
- ・令和5年1月26日（木）外国語活動
- ・令和5年1月31日（火）職業体験（キッザニア甲子園）
- ・令和5年2月17日（金）珠算学習
- ・令和5年3月7日（火）車いす体験

⑥ 小学校学力経年調査における児童質問紙において「自分にはよいところがある」といった項目の肯定的な回答は76.7%で目標にわずかに満たなかった。

不登校については、その傾向にある児童1名がいたが、現在は登校できている。校内委員会で共通理解をはかることにより、全教職員が意識して対象児童を見守ることができた。

⑦ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は85.0%で目標を下回った。
なお、学校で認知したいじめについては、早期に対応することにより、全て解決に至っている。

次年度への改善点

① 「こんにちは」も言えるとよい。

まだ一部できていない子どもがいるので継続した指導が必要である。

② タイムリーな課題に対応した生活目標を入れる機会があっても良いかと思う。

まだ一部、できていない子どもがいるので継続して指導が必要である。

③ さらに充実するといい

来年度はもっと集会ができたらしい。

④ 外部機関との連携が必要である。

引き渡し訓練を検討する必要がある。

⑤ コロナ前の状況に戻りつつある。

⑥ 校内委員会では共通理解が図れるので、継続して行う必要がある。

⑦ 年間を通じて児童理解に努めてきたが、担任の対応（負担）が大きい。

※名札の在り方 冬場の長ズボンなど服装に乱れ

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>1 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上にする。</p> <p>2 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント向上させる。</p> <p>3 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。</p> <p>4 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 80%以上にする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>1 令和 4 年度の小学校学力経年調査における「学級との友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的回答をする児童の割合を 73%以上にする。</p> <p>2 令和 4 年度の小学校学力経年調査の「国語」「算数」において、すべての問題に対する未回答の割合を 7 %以下にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、話し合い活動を充実させる。</p>	B
<p>指標 令和 4 年度の小学校学力経年調査における「学級との友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的回答をする児童の割合を 73%以上にする。（前年度 70%）</p>	B
<p>取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>基礎基本を定着させると共に、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。</p>	B
<p>指標 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント向上させる。</p>	A
<p>取組内容③【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>最後まであきらめずに学習に取り組む態度を育てる。</p>	A
<p>指標 令和 4 年度の小学校学力経年調査の「国語」「算数」において、すべての問題に対する未回答の割合を 7%以下にする。（前年度 9. 6%）</p>	B
<p>取組内容④【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>全学年で、児童がより英語に親しめるように、英語活動を充実させる。</p>	B

<p>指標 令和4年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>取組内容⑤【5 健やかな体の育成】 体育的な用具を充実させ、運動を意欲的にしようとする環境を整備し、児童の体力向上に努める。</p>	
<p>指標 令和4年度の小学校学力経年調査の「運動（体を動かす遊び）やスポーツをすることは好きですか」において、肯定的回答をする児童の割合を80%以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 令和4年度の小学校学力経年調査における「学級との友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的回答をする児童の割合は80.0%で目標を達成した。授業の中で、ペア学習やグループ学習など、話し合いの時間を確保するように努めてきた成果が表れた。</p> <p>② 令和4年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率は国語が62.0%、算数が59.6%であり、前年度より、国語が7.5ポイント、算数が2.0ポイント向上している。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、朝学習などで、基礎基本の学習を繰り返し学習し、定着が図られてきた。</p> <p>③ 令和4年度の小学校学力経年調査の「国語」「算数」において、すべての問題に対する未回答の割合は国語が6.5%、算数が5.2%で目標を達成した。職員間で協力して、アプローチの仕方を工夫しながら、あきらめない心を育てるように取り組み、課題をやらせきる取り組みが結果に表れた。</p> <p>④ 令和4年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は82.8%で目標を達成した。朝のモジュール学習や、外国語の授業において、児童が親しめるように工夫し、充実させてきた成果が表れた。</p> <p>⑤ 令和4年度の小学校学力経年調査の「運動（体を動かす遊び）やスポーツをすることは好きですか」において、肯定的回答をする児童の割合を75.5%で目標を下回る結果となった。体育の授業や、外遊びを通して、児童に体を動かすことの楽しさを伝え、学級のボールも増やし、体育的な用具の充実も図ってきたが、引き続き、工夫していく必要がある。</p>	

次年度への改善点	
<p>① 今後も話し合い活動の進め方を工夫していく。</p> <p>② 来年度も引き続き基礎基本の定着に向けての指導を継続していく。</p> <p>③ 来年度も継続的に指導していく。</p> <p>④ 外国語講師の授業を楽しみにしている児童も多いので、来年度もできれば継続していく。</p> <p>⑤ 縦割りでの活動など、運動場で遊ぶ活動をさらに増やしていく。</p>	

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>1 令和4年度末の校内調査の「ほぼ毎日、学校活動の中で学習者用端末を使っていますか」の項目について肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。</p> <p>2 ゆとりの日の設定を月2回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>1 令和4年度の校内調査の「すすんで、本を読んでいますか。」の項目について、肯定的に答える児童の割合を78%以上にする。</p> <p>2 研修後のアンケートにおける「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教員の割合を80%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 学校活動の中で、児童が学習者用端末に慣れるために毎日触れる機会を設定する。	B
指標 心の天気を毎日つける。	
取組内容②【7 人材確保・育成としなやかな組織づくり】 ゆとりの日を意識して、計画的に仕事を進める。	A
指標 残業時間を40時間以内に収めることができるようとする。	
取組内容③【8 生涯学習の支援】 図書室の開館時間の幅を広げ、児童自らが進んで読書活動に取り組むことができるよう環境を整える。	B
指標 令和4年度末の校内調査において、学校図書館年間貸出冊数を前年度より50冊増加させる。	
取組内容④【7 人材確保・育成としなやかな組織づくり】 外部専門家を招聘し、教員の指導力向上に係る校内研修を実施する。	A
指標 校内研修を年間を通じて3回以上実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①指標とされる「心の天気」への入力は増えてはいるが、毎日ではない。1年生の児童はパソコンの立ち上げから入力だけで20分かかるため、毎日の使用は困難であった。

- ②ゆとりの日は月2回、学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日、冬季休業期間は2日設定することができ、目標を達成した。残業時間については、管理職に45時間超60時間以下となる月もあったが、その他の教員については目標を達成している。
- ③令和4年度の校内調査の「すすんで、本を読んでいますか。」の項目について、肯定的に答える児童の割合を76.2%で目標を下回る結果となった。また、学校図書館年間貸出冊数は、前年度の同時期と比較すると減少している。図書館の開放時間は増やしているが、読書時間の確保は学年が上がると難しい。
- ④校内研修を年間通じて3回実施し、目標を達成した。研修後のアンケートにおける「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教員の割合は100%であった。
- ・令和4年11月2日（水）教職員研修（コーチング）①
 - ・令和4年11月30日（水）教職員研修（働き方改革）
 - ・令和4年12月23日（水）教職員研修（コーチング）②
- その他、大阪市教育センターのスクールアドバイザーによる校内研修を実施した。
- ・令和4年8月23日（火）学力向上研修①
 - ・令和5年2月22日（水）学力向上研修②
 - ・令和5年2月28日（火）学力向上研修③

次年度への改善点

- ①心の天気への入力は、低学年の場合、週1回程度でも良いのではないか。
情報機器を専門的に扱うことができる情報教育支援センターの活用が必要である。
心の天気を付けたところで、それがどのように活用されているか精査する必要がある。
- ②残業時間の縮減によって、どのような効果があったのか精査する必要がある。
- ③目標達成に向けては、開館時間の拡充、学級貸し出しの在り方、城東図書館からの貸し出し、蔵書の充実等、検討する必要がある。
- ④研修の在り方。
今年の研修内容は良かったが、来年度も同じような充実した内容の校内研修を検討する。
校内研修は、計画的に実施する必要がある。

令和 4 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立今福小学校学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価結果は概ね妥当である。小学校学力経年調査や児童・保護者アンケートの結果から、学校が子どもたち一人ひとりにあった教育活動を行っていることが伺える。しかし一方で、「あいさつ」「学力面」「図書館利用」に課題があり、引き続き、学校としての取り組みが必要である。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：安全・安心な教育の推進

- ・学校における「あいさつ週間」の取り組みは評価できるが、見守り隊などの地域の方々に対するあいさつが少ないと感じている。登校班の情報（班構成、集合時間等）を地域と共有すれば、遅れて登校する児童への対応ができ、児童に親しみを感じてもらうことにつながる。
- ・学校統廃合の話が始まったことによって、児童が大人しくなってきてはいないか。学校は児童に対し、しっかり説明する必要がある。

年度目標：未来を切り拓く学力・体力の向上

- ・児童アンケートにおける「進んで本を読んでいますか」の集計結果を見ると、この 3 年で減少が続いている。読解力はすべての学習の基本であるため、児童の読書への関心を高める取り組みに力を入れてほしい。
- ・英語教育は過去のような文法中心とは違って、会話が主体となっている。低学年に対しても英語に興味と関心を持つ機会を設けているのは評価できる。
- ・体力面に問題はないが、学力面の課題は引き続き、原因を分析し、改善に向けた取り組みをしなければならない。

年度目標：学びを支える教育環境の充実

- ・学習者用端末の活用の促進は必要ではあるが、辞典を使って調べ物をする機会が少なくなるなど、言語活動の充実と矛盾する部分がある。
- ・ゆとりの日や学校閉庁日の取り組みは評価できる。先生が遅くまで残ることは、以前に比べると少なくなっている。
- ・児童アンケートにおける「進んで本を読んでいますか」の集計結果とも関連すると思われるが、学校図書館の利用や年間貸出冊数が少なくなった原因を分析し、改善に向けた取り組みをしなければならない。

3 今後の学校園の運営についての意見

- ・学校協議会の開催時刻は、来年度から昼間の時間帯にすることによって、教職員の長時間勤務の改善にもつながる。